

## 「京都市公共工事コスト縮減対策に関する新行動計画」の策定について

本市では、平成10年3月に「京都市公共工事コスト縮減に関する行動計画」を策定し、公共工事コストの縮減を推進してきたところですが、本日、これまでの取組の課題を踏まえ、平成12年度以降の新たな「京都市公共工事コスト縮減対策に関する新行動計画」を策定しましたのでお知らせします。

### 1 新行動計画策定の背景と目的

本市における、公共工事コスト縮減対策については、行動計画に基づき平成9年度から11年度までの3年間、各局が一致協力して施策を推進し、一定の成果を得てきました。

しかし、公共工事の実施に当たっては、依然として厳しい財政事情の下で社会資本整備を着実に進めていくことが要請されていることなどから、平成12年9月、政府が「公共工事コスト縮減対策に関する新行動指針」を策定したことを受け、本市においても、新しい視点のコスト縮減施策を取り入れた、「京都市公共工事コスト縮減対策に関する新行動計画」を策定することとしました。

また、「公共工事コストの縮減」は、「京都新世紀市政改革大綱」の30の取組項目のひとつにもなっており、全庁的に取り組んでいきます。

### 2 新行動計画の主要ポイント

#### (1) 取組項目

新行動計画では、これまで進めてきた工事コストの低減に加え、新たにライフサイクルコストの低減等の観点でも取組を行い、総合的なコスト縮減を目指します。

| コスト縮減の取組分野            | 施策数       | 項目数   |            |
|-----------------------|-----------|-------|------------|
|                       |           | 旧行動計画 | 新行動計画      |
| 工事コストの低減              | 19        | 120   | 179        |
| 工事の時間的コストの低減          | 1         |       | 6          |
| ライフサイクルコストの低減         | 3         |       | 37         |
| 工事における社会的コストの低減       | 4         |       | 15         |
| 工事の効率性向上による長期的コストの低減  | 3         |       | 8          |
| <b>新行動計画の取組施策 5分野</b> | <b>30</b> |       | <b>245</b> |

#### (2) 取組の期間及び数値目標

取組期間は、平成12年度から20年度末までとします。

「京都新世紀市政改革大綱」の取組最終年度である、平成17年度末において、取組の確認を行い、必要に応じて見直しを図ります。

数値目標は、平成8年度の標準的な公共工事コストに対して、7%以上縮減することとし、取組期間の各年度に対する目標数値とします。

数値目標の算定対象は、工事コストの低減のうち、本市がコスト縮減額を算出する施策とします。

また、からまでの新たな施策については、現時点で縮減額を算出する手法が確立されていないため、取組数や事例等の確認を行うことにより、取組を推進していきます。

#### (3) 施策の実施に当たっての留意点

社会資本が備えるべき基本機能・品質を満足させた上で進めること

下請企業等への不当なしわ寄せを生起させないこと

入札談合等の不正行為を防止すること

#### (4) 新行動計画の実施状況の検証

「公共工事コスト縮減対策検討専門部会」に設置された「建設副産物対策部会」、「土木部会」、「建築部会」、「契約部会」及び「埋蔵文化財部会」の各部会において、年度ごとにフォローアップを行います。

具体的施策についても実施状況を検証し、段階的に改善を図っていきます。

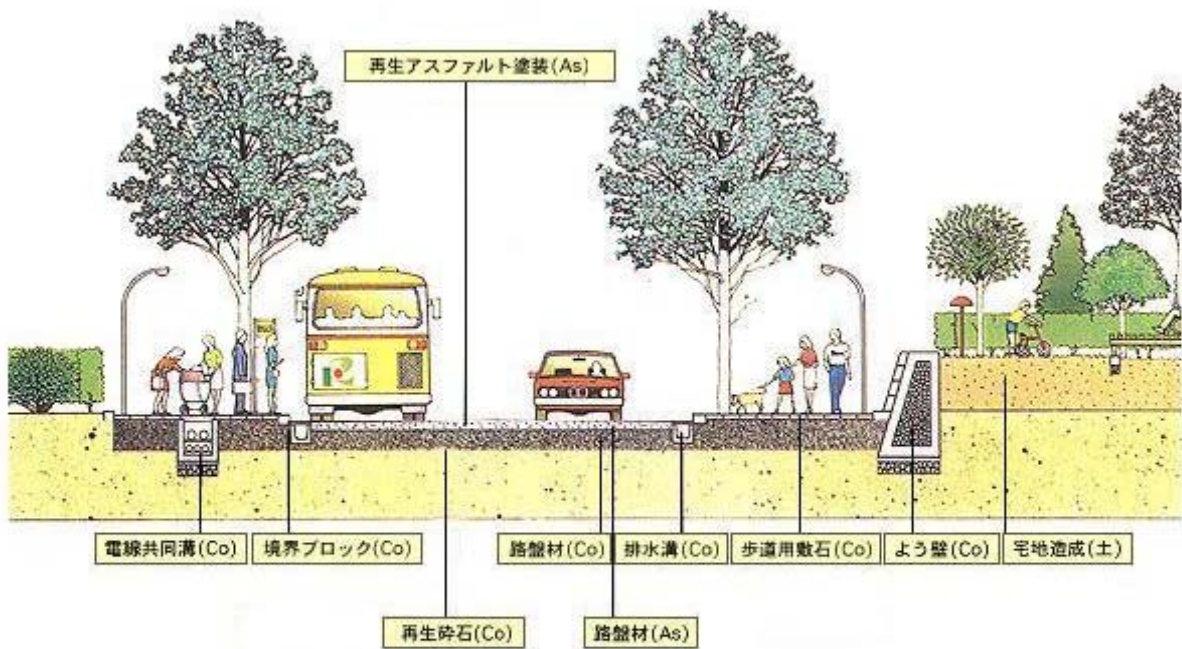
### 3 新行動計画の施策概要及び主な施策事例

| 施策番号・施策名  | 取組内容及び主な施策事例   |
|---|--|
| <b>工事コストの低減</b>   |  |
| ア 工事の計画・設計等の見直し<br>イ 工事発注の効率化等<br>ウ 工事構成要素のコスト低減<br>エ 工事实施段階での合理化・規制緩和等に関する施策 | 工事の計画・設計等の見直し，工事発注の効率化等により，工事コストの低減を図る。<br>(主な施策事例)・整備手法や計画・設計諸元の見直し（二層式河川の採用）<br>・既存植生，既存樹木の保存と活用の促進<br>・設計V Eの導入<br>・鋼橋の少本数桁化<br>・リサイクル材の利用促進<br><b>（イメージ図 1）</b>  |
| <b>工事の時間的コストの低減</b>   |  |
|   | 工事期間の短縮等により，工事の時間的コストの低減を図る。<br>(主な施策事例)・集中投資による機能の早期発現<br>・新技術の活用による工期の短縮   |
| <b>ライフサイクルコストの低減（施設の品質の向上）</b>  |  |
| 施設の耐久性の向上（長寿命化）<br><br>施設の省資源・省エネルギー化（運用，維持管理費の低減）<br><br>環境と調和した施設への転換       | ライフサイクル（施設の企画，設計，建設，運営，維持管理，解体撤去，廃棄まで）を通じてのコストを低減する。<br>(主な施策事例)・ライフサイクルコスト低減技術を導入した橋梁の採用<br><b>（イメージ図 2）</b><br><b>（イメージ図 3）</b><br>省資源・省エネルギー化により，ライフサイクルコストを低減する。<br>(主な施策事例)・立地条件を考慮することによる自然エネルギーの有効利用<br><b>（イメージ図 4）</b><br>環境に調和した施設，バリアフリー化した施設への転換により，環境に係るコスト等を低減する。<br>(主な施策事例)・バリアフリー施設の整備促進<br>・排水性・透水性舗装の実施                               |
| <b>工事における社会的コストの低減</b>  |  |
| 工事におけるリサイクルの推進<br><br>工事における環境改善<br><br>工事中の交通渋滞緩和対策<br><br>工事中の安全対策          | 建設副産物等のリサイクルを推進することにより，資源の有効利用や環境負荷量の低減を図り，社会的コストを低減する。<br>(主な施策事例)・建設副産物（コンクリート塊等）のリサイクル推進<br>・他産業から発生する副産物の有効利用 <b>（イメージ図 5）</b><br><br>環境改善により，環境負荷を軽減し，社会的コストを低減する。<br>(主な施策事例)・建設機械の環境対策（排出ガス等）<br><br>現道上での交通渋滞を緩和するよう工事を工夫し，社会的コストを低減する。<br>(主な施策事例)・施工時間帯の変更<br><br>安全対策活動等の実施により，工事における安全性の水準を改善する。<br>(主な施策事例)・現場における安全パトロール等，安全対策活動の実施及び支援の充実 |
| <b>工事の効率性向上による長期的コストの低減</b>   |  |
| 工事における規制改革<br><br>工事情報の電子化<br><br>工事における新技術の活用                                | 各種の規制改革を推進する。<br>(主な施策事例)・技術基準類の性能規定化<br><br>工事情報や手続の電子化等により，工事の効率化を図るとともに，建設業の情報通信技術（IT）利用を拡大する。<br>(主な施策事例)・工事関係書類等の統一化，電子化に向けての検討<br>・建設CALS / ECの導入<br><br>新技術の活用を促進する。<br>(主な施策事例)・建設工事における新技術の活用   |

## リサイクル材の利用促進

建設工事において、再生クラッシュラン、再生粒度調整砕石、再生アスファルト混合物等のリサイクル材を積極的に利用することにより、リサイクルを促進する。

<リサイクル材利用のイメージ>



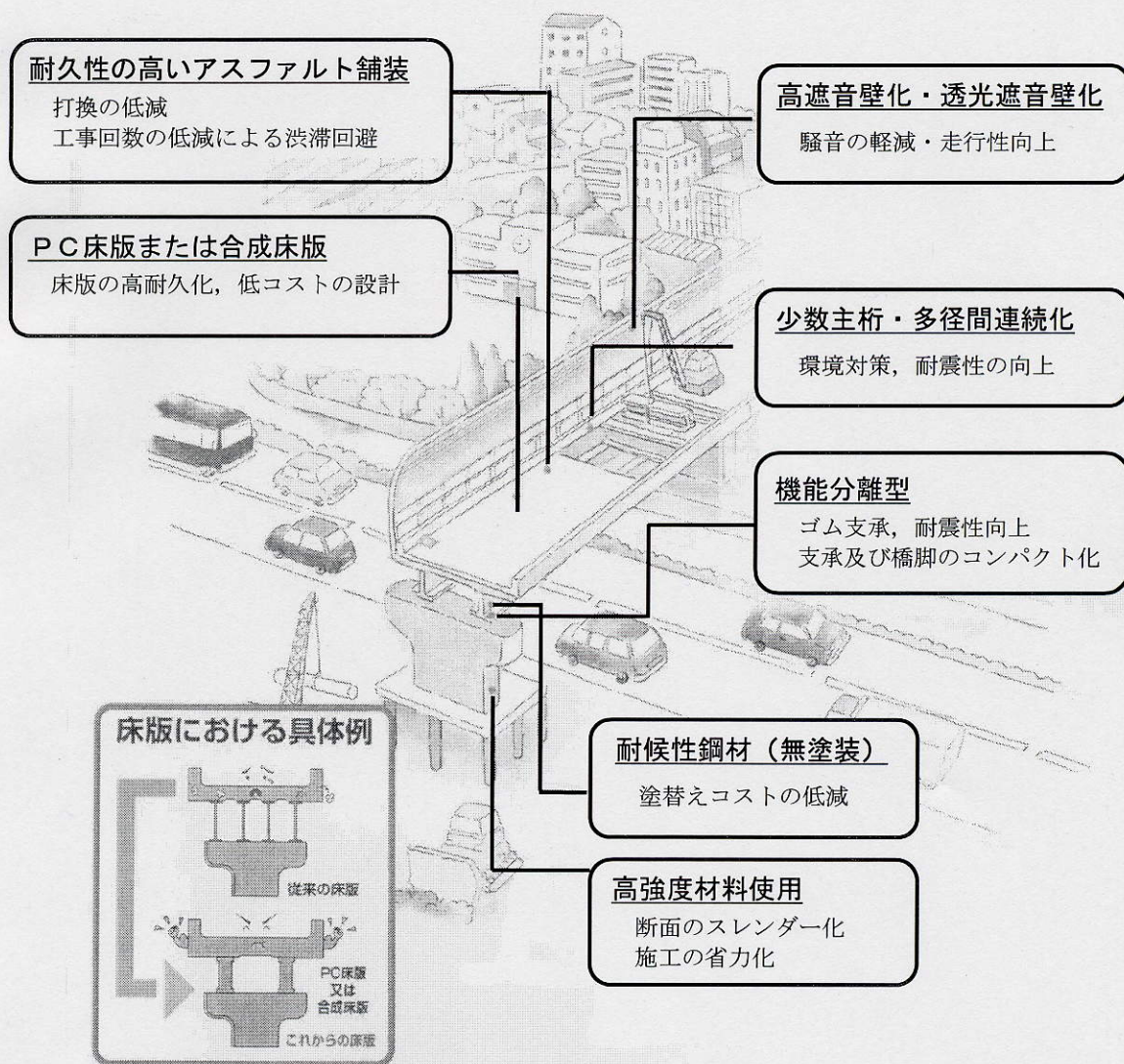
凡例  
 Co：コンクリート塊からの再利用  
 As：アスファルト・コンクリート塊からの再利用  
 土：建設発生土からの再利用

(3) ライフサイクルコストの低減  
(施設の品質の向上)

①施設の耐久性の向上  
(長寿命化)

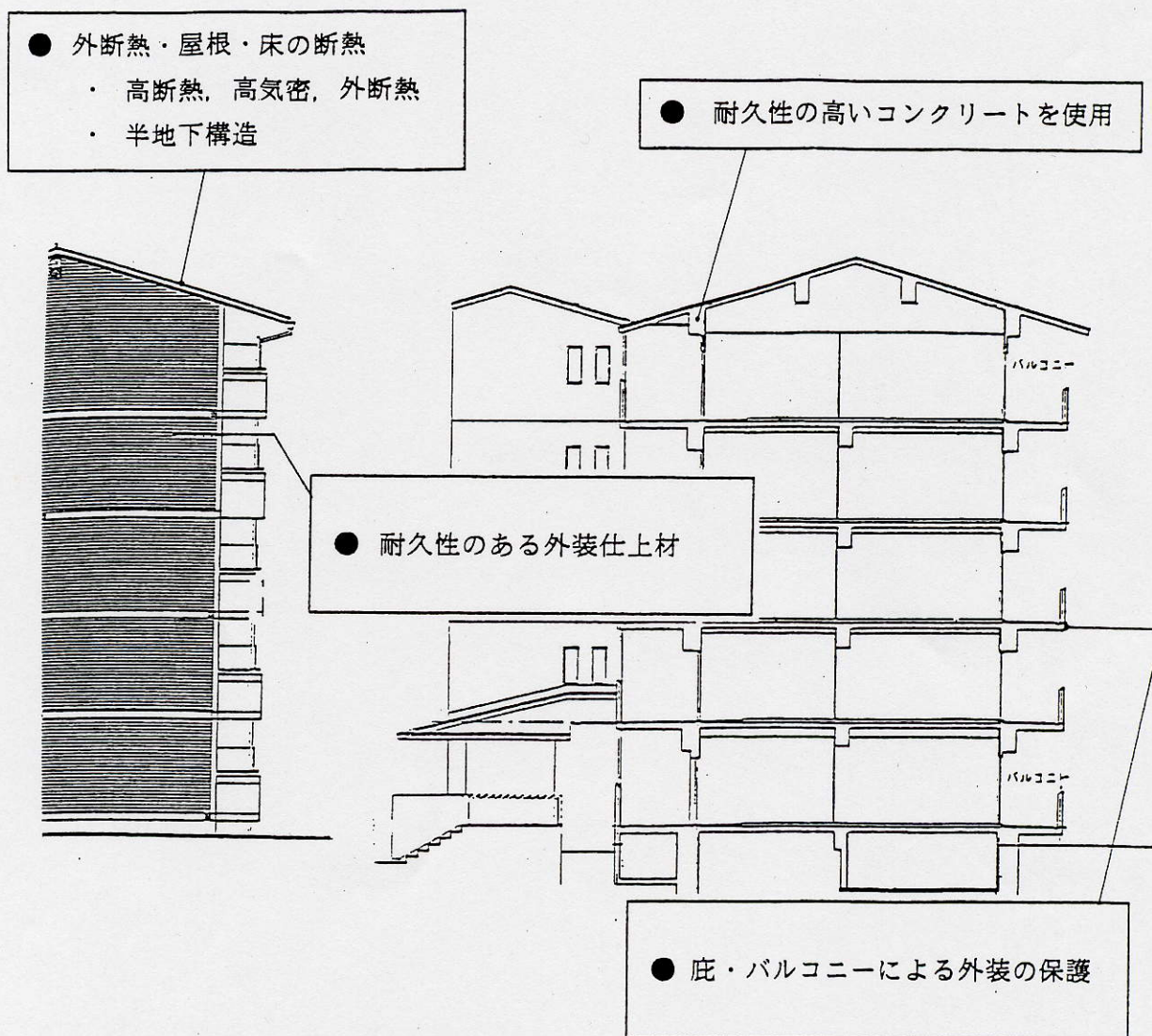
## ライフサイクルコスト低減技術を 導入した橋梁の採用

ライフサイクルコストを低減する技術（耐候性鋼材，長寿命塗装，PC床版，合成床版，床版防水，ゴム支承，高遮音壁，非排水型伸縮装置等）を導入した橋梁を採用する。



## 建物躯体の長寿命化

外断熱工法や、庇の設置などにより、外部躯体の保護・長寿命化を図り、また、耐久性のある内外装仕上げ材の採用や、メンテナンスの容易な設備計画を行うことにより、建物躯体の維持・修繕費を低減する。

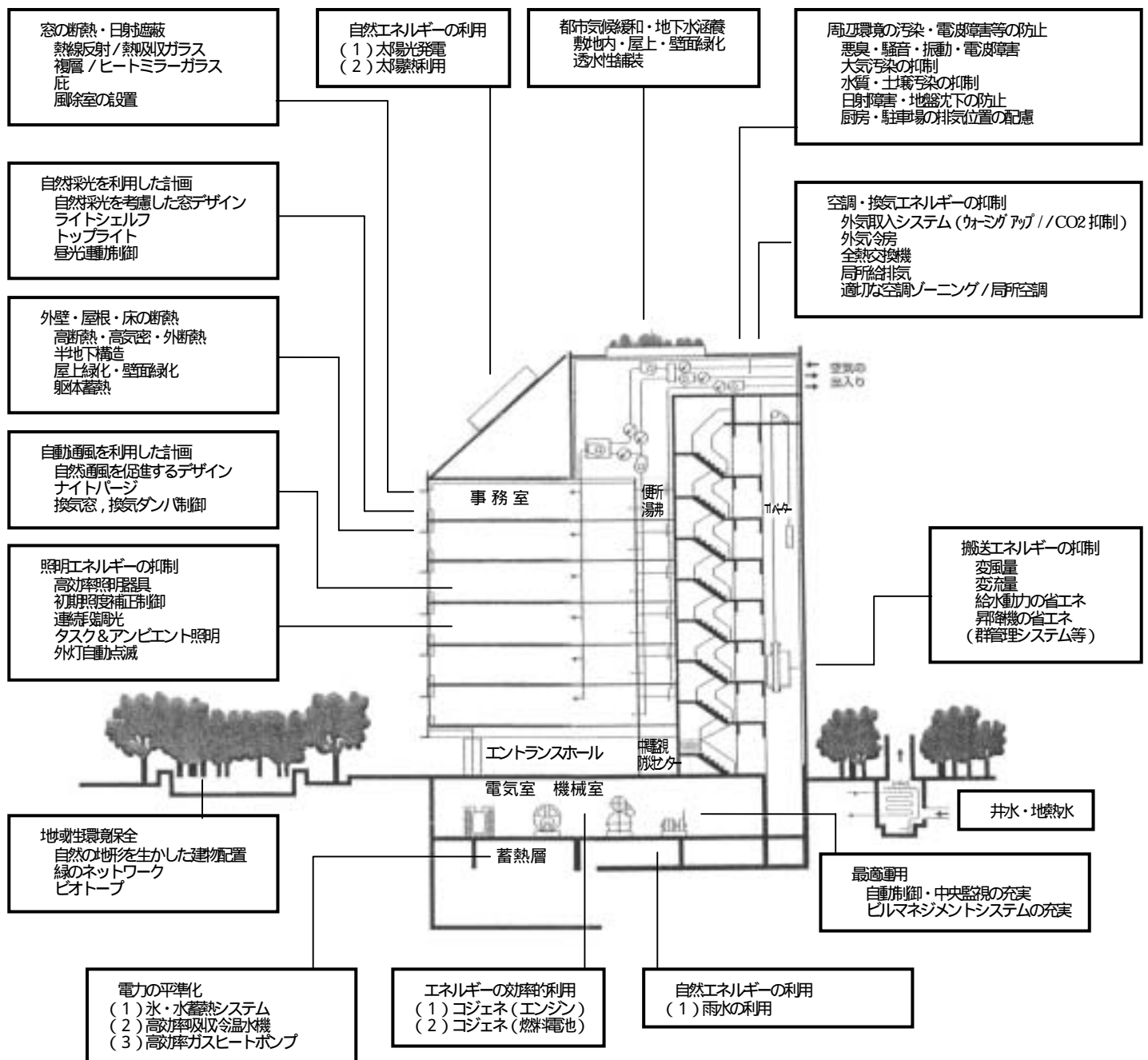


- 部分更新・交換の容易な設備
- 将来の利用方法の変化やそれに伴う間取りやシステムの変更に柔軟に対応できるようなプランの採用
- 施設ごとに適切な耐用年数を設定し、耐用年数に応じた設計を検討する。

# 立地条件を考慮することによる自然エネルギーの有効利用

自然採光や、自然換気を積極的に利用することにより、照明負荷や、空調負荷を低減する。

太陽熱や、雨水など自然の資源を有効に活用する。



(4) 工事における社会的コストの低減

① 工事におけるリサイクルの推進

## 他産業から発生する副産物の有効利用

京都市のごみ焼却施設から発生する焼却灰を溶融して、資源化したスラグを路盤材等の建設骨材として有効に利用することを検討し、その利用を促進する。

